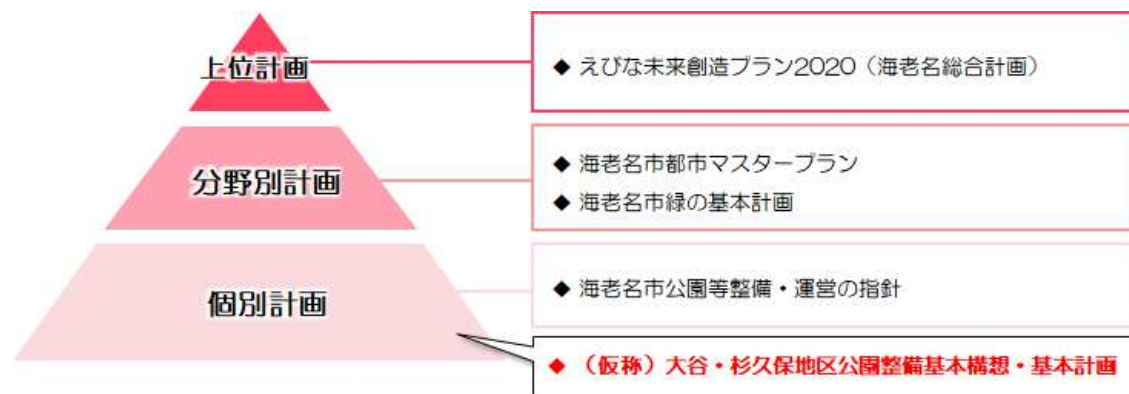


(仮称) 大谷・杉久保地区公園整備基本構想・基本計画 概要版

1. 計画策定の背景と位置づけ

- 本公園計画地である南部地域には、小規模で身近な公園が点在していますが、地域の拠点となる中規模以上の公園は北部地域や中部地域と比較すると少ない状況となっています。
- 「都市マスタープラン」では、地域特性に配慮し、公園・緑地を適切に配置するものと定めており、また、緑地の保全や緑化の推進について示した「緑の基本計画」においては、緑の創出の観点から地区の拠点となる新規公園の設置を位置付けています。
- 上位計画や分野別計画が示す将来像の実現に向け、新規公園の整備を適切かつ効率的に推進するため、「(仮称) 大谷・杉久保地区公園整備基本構想・基本計画」を策定します。



2. 計画地の現況

＜計画地とその周辺の現況＞

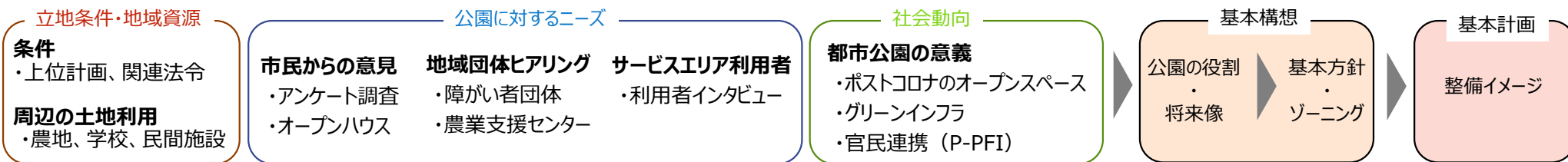


所在地	海老名市杉久保北三丁目 1253-1 ほか
都市計画区域	市街化調整区域
公園種別 (予定)	近隣公園
計画敷地面積	約 2 ha
アクセス	・JR相模線「社家駅」から徒歩約30分 (約2.4 km) ・海老名ICから車で約10分 (約3.3km) ・海老名市コミュニティバス大谷・杉久保ルート「EXPASA海老名下り」下車すぐ ・相鉄バス「杉久保小学校前」下車、徒歩 2 分

- 計画地は東名高速道路と釜坂川の間に位置する約 2 ha の敷地で、海老名サービスエリア（下り）に隣接しています。
- 計画地周辺は農地や住宅地が広がっているほか、杉久保釜坂公園や海老名市立杉久保小学校、集合住宅などが立地しています。
- 計画地は南向きの段丘斜面となっており、最大高低差はおよそ20mあります。
- 杉久保小学校の南側に南部大型防災備蓄倉庫があることや、海老名サービスエリア（下り）が隣接することから、これらと連携した地域の防災拠点となり得る立地となっています。

(仮称) 大谷・杉久保地区公園整備基本構想・基本計画 概要版

3. 計画策定までの流れ



4. 本公園に求められる役割

◆立地条件・地域資源

【南部地域における拠点となる公園】

計画地の特徴的な地形や地域資源を活かすとともに、誰もが快適で安全に生活できるよう、地域の防災機能の向上に資する、南部地域における拠点となる公園が求められています。

【地域住民のくらしに寄り添う近隣公園】

地域住民（半径500メートル程度）が日常的に利用し、地域の活動の場となる近隣公園として、地域住民のくらしに寄り添う公園が求められています。

◆公園に対するニーズ

【計画地の特徴を活かした公園】

農産物などの地域資源や、自然や地形など計画地の特徴を活かした公園が求められています。

【日常のくらしを豊かにする公園】

休憩機能や自然環境、遊びの機能など、日常のくらしを豊かにする公園が求められています。

◆社会動向

【グリーンインフラ】

公園が環境改善や防災・減災等に寄与するグリーンインフラとして、温暖化の原因となるCO2を吸収する樹木や雨水を貯留・浸透させる地表面の確保のため、既存樹林地の保全や植栽地の整備を行う。

【官民連携に向けた取り組み】

公園が持つ多様な機能（例：健康・レクリエーション空間の提供や経済活性化等）の維持管理するとともにその魅力向上を図るために、設置管理許可やP-PFI、指定管理者制度等多様な官民連携手法を活用し、効率的・効果的な公園の整備、管理運営を図っていくことが求められます。

5. 本公園の将来像とコンセプト

本公園に求められる役割と、計画地の立地・社会動向等から、公園の将来像とコンセプトを示します。

取り入れる視点

海老名SAとの連携 民間事業者のノウハウ発揮

海老名らしさ（地域資源・魅力） 地域住民に遊び場や憩い空間の提供

まちの安心安全 特徴的な風景や地形の活用

海老名の魅力の発信拠点

地域資源を活かし、市内外の多くの人に海老名の魅力を体感・実感してもらう場とすることで、人々の笑顔と地域の活力を生み出します。

～幸せな時（とき）が交わる丘

えびな Cross Hill～

賑わい・交流の拠点

くらしを豊かにする地域の拠点

立地を生かし、海老名SAや周辺地域の事業者と連携を図ることで、多様な人々が交流する賑わいの場を創出します。

近隣公園として、地域住民における生活の質の向上に寄与する場としていくとともに、公園を核とした地域コミュニティの醸成・活性化につなげていきます。

6. 基本方針

市内外・多世代の人々が充実した時間を過ごす場所として、憩い・遊び・学ぶことで、多様な交流と賑わいを生み、地域のチカラを育て、まちを元気にしていくことを目指し、本公園のコンセプトと、4つの整備の基本方針を以下のとおり掲げます。

<コンセプト>

～ 幸せな時(とき)が交わる丘 えびな Cross Hill ～

<公園整備の基本方針>

◆ 方針1：人と人がつながり賑わう居心地の良い公園

市内外・多世代交流を促すため、隣接する海老名SAのポテンシャルや民間事業者と連携して、相乗効果による新たな賑わいと交流を創出します。民間事業者の公園運営も検討して公園を柔軟に活用します。

◆ 方針2：みどりに囲まれた憩いの公園

計画地の段丘斜面地という特徴的な地形を生かしつつ、既存の緑を活かした公園づくりに配慮して周辺の景観との調和を図り、海老名の魅力発信を創出します。

◆ 方針3：身近な暮らしに寄り添う公園

子どもたちにとって楽しい遊び場であるとともに、地域の個性が活かされた活動の拠点として、地域コミュニティを醸成されるしくみを創出します。また、多様なニーズや時代の変化に対応できることを目指して、みんなでつくり・育てる持続可能な公園を目指します。

◆ 方針4：安心・安全となる防災機能を備えた公園

災害時の避難場所や防災訓練等が行える地域の防災拠点と発災後を見据えた、復旧・復興のための様々な活動の拠点となるオープンスペースを備える、災害に強い公園づくりを目指します。また、住民、民間事業者と市が共に連携し、まちの防災意識を高めるしくみづくりを促進します。

7. ゾーンの設定

本公園の想定される利用シーンから、導入機能を検討し、園内のゾーンを設定しました。

基本方針	想定される利用シーン
【方針1】 人と人が つながり賑わう 居心地の良い公園	■ 仲間と集まる ■ 特別な体験をする ■ 海老名らしさを楽しむ
【方針2】 みどりに囲まれた 憩いの公園	■ 自然に囲まれて癒される ■ 気分転換にリフレッシュする ■ 一人でふらっと立ち寄る
【方針3】 身近な暮らしに 寄り添う公園	■ 芝生で家族がお昼を食べながら会話を楽しむ ■ 体験や学びで成長する ■ 子どもたちが様々な遊びを楽しむ
【方針4】 安心・安全となる 防災機能を 備えた公園	■ 広域避難場所 ■ 災害時・復興時の活動拠点

導入機能 (ゾーン区分)

賑わい交流
ゾーン

憩い休憩
ゾーン

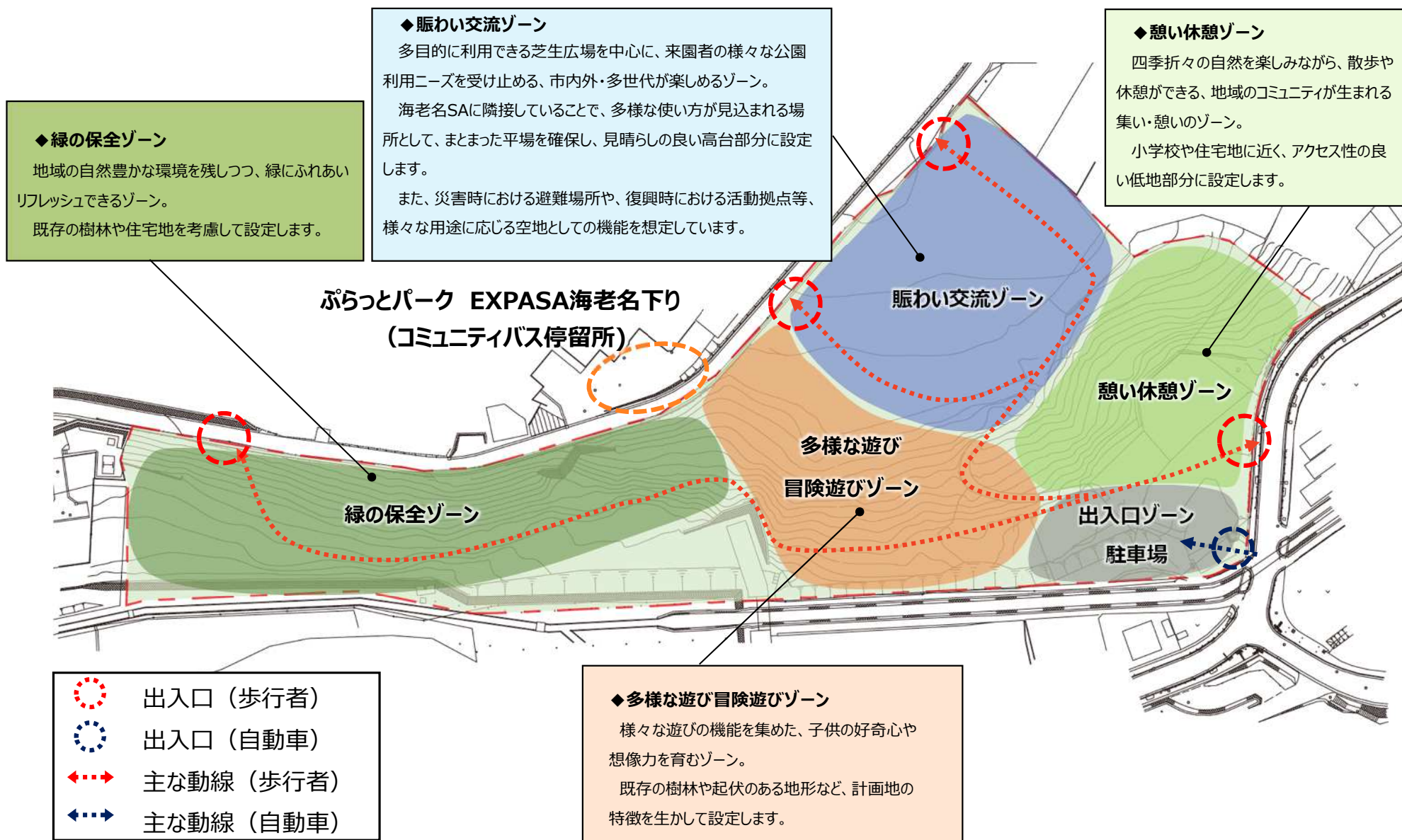
緑の保全
ゾーン

多様な遊び
冒険遊び
ゾーン

出入口ゾーン

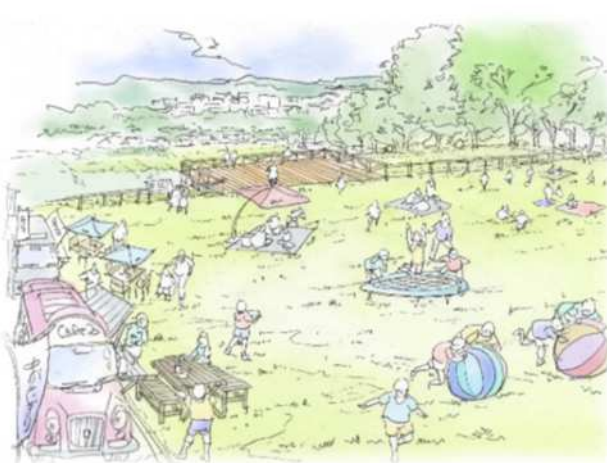
8. ゾーニング案

対象地の敷地条件や、前項で検討した導入機能を踏まえ、園内のゾーニングを以下のとおり設定しました。



9. 導入施設と整備イメージ

導入機能	導入施設（案）
賑わい交流ゾーン 学校の校庭ほどの大きさを想定	＜多目的広場＞ - 公園の中心的な場所となります。多くの来園者が集い、交わり、広場の中で、様々な出会いや活動が生まれる空間とします。 - まとまった平場を活用し、食事やピクニック、様々なアクティビティを楽しむことができる芝生の広場です。 - 園路沿いにはキッチンカーなどの出店も可能なスペースを設けることで、イベントの開催なども可能な仕様を検討します。 - 災害時は避難場所として活用することを想定し、防災機能を備えた広場とします。 ＜憩いの広場＞ - オープンスペースにテーブルやベンチを設置し、地域住民が気軽に立ち寄り、くつろげる場とします。 ＜交流ラウンジ＞ - 休憩や持ち込みによる簡単な飲食ができる、開放感のある屋内スペースを検討します。 - 管理棟やトイレなどの機能を併せもつ建物を検討します。
憩い休憩ゾーン	＜花の坂＞ 対象地の高低差を活かした、四季と自然を楽しめる空間。斜面上に複数種類の植栽を施すことで、植物や花々が調和する場を創出します。
緑の保全ゾーン	＜散策路＞ 自然のなかでリフレッシュし、心身の健康づくりに寄与する樹林空間と散策路。整備にあたっては、自然環境と生物多様性を尊重し、既存樹木を残しつつ、新たな植栽を施すことで、全体の景観・調和を図り、新たな魅力ある空間を創出します。
多様な遊び 冒険遊びゾーン	＜林間アスレチック・ロングすべり台＞ - 子どもの冒険心や創造性を刺激するアスレチック遊具やロングすべり台などの設置を検討します。利用者が年齢や嗜好にあった遊びを選択できるよう、様々な難易度の遊具を設置することを検討します。 ＜プレーパーク＞ - 斜面と既存の樹林を活用した、子どもたちが自然と触れ合いながら自由に遊べる空間です。 ＜多様な機能をもつ遊具等＞ - 年齢や性別、国籍、障がいの有無などに関係なく、だれもが楽しめる公園とするため、インクルーシブ遊具や健康遊具など多機能な遊びを検討します。
出入口ゾーン	＜駐車場＞ 南側市道34号線に接する場所に駐車場の整備を検討します。



賑わい交流ゾーンのイメージ



憩い休憩ゾーンのイメージ

